

題：インターネット社会における新聞・雑誌の意義について

名前：

私はインターネットが発達したこの社会においても、新聞や雑誌のメディアとしての役割は失われず、よってこれからも必要であると考えている。新聞・雑誌の歴史は古く、明治時代の頃から発達してきており、伝統があるといえる。対してインターネットが発達してきたのはここ二十数年のことである。急速に広まり、全世界を結ぶ通信網となったのは事実である。しかし、ニュースの発信としてのインターネットがもつ働きについてはどうだろうか。私自身、インターネットにおいてニュースなどを利用することがしばしばある。そこで得られる情報は簡潔であり、またスピードも新聞・雑誌に比べて断然速い。しかし私は新聞や雑誌もまた読んでいる。そこにはまとまった情報があり、さまざまなトピックがあり背景の情報がある。

私がここで言いたいののは、インターネットにはインターネットの、新聞・雑誌には新聞・雑誌の特色があるということである。インタ

ネットについては、インターネットで得られる情報は速い。また無料(通信料を除く)で得られることもしばしばである。しかし一方でそれ以外の情報は別個に独立しており、感覚的にはバラバラであるような印象をうける。また簡潔ではあるが、背景情報や評価を含まず内容が薄く感じることもある。新聞や雑誌については、様々な情報を含んでいる。またニュースだけでなく、社説や学者の意見などものせられていることは注目すべき点である。そして媒体が紙であることもインターネットとは大きく異なるところである。また、新聞や雑誌は古くから生活に根ざしている。しかし有料であり、また情報もインターネットに比べれば遅い。

私が思うに、インターネットと新聞・雑誌はそれぞれ長所をほかじながら互いに共存をしていくものだと思う。よって新聞・雑誌はこれからも必要である。少なくとも私にとってなくなってしまうのではない。

1800字